

平成8年度 尾瀬傷病事故統計

(尾瀬山の鼻・尾瀬沼ビジターセンター対応記録から)

財団法人 尾瀬保護財団

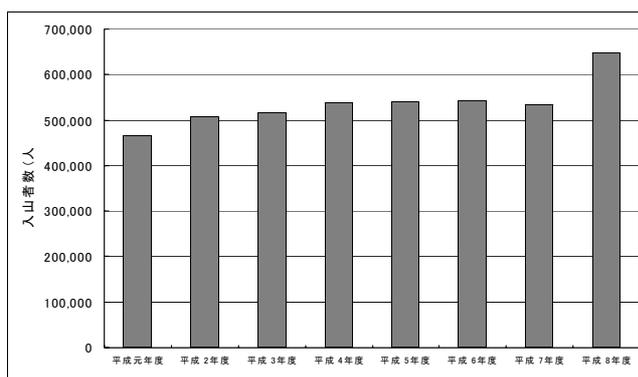
目 次

1	入山者数の状況	1
2	傷病事故の発生状況	1
(1)	年別発生状況	1
(2)	地域別発生状況	2
(3)	原因別発生状況	2
(4)	シーズン別発生状況	2
(5)	月別発生状況	3
(6)	年齢別・男女別発生状況	3
(7)	傷病者の居住地別発生状況	3
(8)	グループ人数別発生状況	4
(9)	傷病事故の通報状況	4
3	救助活動	4
(1)	救助隊出動状況	4
(2)	ヘリコプター活用状況	4

1 入山者数の状況

尾瀬が利用できる季節は5月大型連休後から10月中旬までであるが、同期間で環境省が各登山口に計測するセンサーを設置し、年間の尾瀬入山者数を計測している。この結果によれば、尾瀬の入山者数は平成2年度から平成7年度まで50万人台前半を推移し、平成8年度にはテレビ等マスコミでの頻繁な尾瀬紹介により64万人台に上昇した。一方で平成8年は記録的な積雪量と、春先の低温等の原因により、雪解け時期が例年よりも半月程度遅くなった。

年度	入山者数 (人)	対前年比 (%)
平成元年	467,090	
平成2年	505,840	108.3
平成3年	515,090	101.8
平成4年	539,790	104.8
平成5年	540,264	100.1
平成6年	542,058	100.3
平成7年	534,196	98.5
平成8年	647,523	121.2



尾瀬の入山者数の推移(環境省のデータから作成)

2 傷病事故の発生状況

(1) 年別発生状況

尾瀬保護財団が管理する尾瀬山の鼻ビジターセンター(群馬県より管理受託)、尾瀬沼ビジターセンター(環境省より管理受託)の職員が出動した傷病事故は、16件発生した。

年度	区分	発生件数 (件)	遭難者(人)			
			死亡	行方不明	負傷	計
8年度		16			16	16

(2) 地域別発生状況

尾瀬ヶ原地域の記録がなかったことから、すべて尾瀬沼地区での結果となっている。その中で、尾瀬沼周辺(大江湿原・沼北岸、尾瀬沼南岸)を合わせると81.3%となり、尾瀬沼ビジターセンター職員が対応した傷病事故は、尾瀬沼地域での事例が大多数あることがわかる。

地域別	区分	発生件数 (件)	発生 比率	遭難者(人)			
				死亡	行方不明	負傷	計
鳩待峠～山ノ鼻							
尾瀬ヶ原							
三条ノ滝							
大江湿原・沼北岸		2	12.5			2	2

尾瀬沼南岸	1	6.3			1	1
尾瀬沼周辺	10	62.5			10	10
尾瀬沼その他	1	6.3			1	1
沼山峠～尾瀬沼						
大清水～尾瀬沼						
燧裏林道						
アヤメ平						
至仏山						
燧ヶ岳	2	12.5			2	2
合計	16	100.0			16	16

(3) 原因別発生状況

傷病事故に至った原因では、木道上での転倒事故が12件（75.0%）と最も多く、ついで疲労による歩行困難が2件であった。

原因別	区分 発生件数 (件)	遭難者 (人)				
		死亡	行方不明	負傷	救出	計
木道上の転倒	12			12		12
歩道上の転倒	1				1	1
病気	1				1	1
疲労・低体温	2				2	2
落石	0					
道に迷い	0					
雪崩・雪渓崩落	0					
落雷	0					
徒渉失敗	0					
その他	0					
不明	0					
合計	16			12	4	16

(4) シーズン別発生状況

シーズン別では春山での発生が50.0%と最も高く、残雪の多さや、春先の低温などの影響が顕著であると思われる。

シーズン別	区分 発生件数 (件)	遭難者 (人)				
		死亡	行方不明	負傷	救出	計
春山(4・5・6月)	8			7	1	8
夏山(7・8月)	5			3	2	5
秋山(9・10・11月)	3			2	1	3
合計	16			12	4	16

(5) 月別発生状況

月別発生では6月が8件（50.0%）と最も多く、次いで7月が5件（31.3%）、9月が2件（12.5%）の順であった。残雪の多さなどの気候的条件と、登山者の多い初夏から夏にかけて傷病事故が集中する傾向が見られた。

原因別	区分	発生件数 (件)	遭難者 (人)				
			死亡	行方不明	負傷	救出	計
	4月	0					
	5月	0					
	6月	8			7	1	8
	7月	5			3	2	5
	8月	0					
	9月	2			2		2
	10月	1				1	1
	11月	0					
	合計	16			12	4	16

(6) 年齢別・男女別発生状況

年齢・性別についての記載漏れが多く、すべて不明扱いとした。

区分	性別不明 (人)					比率 (%)
	死亡	行方不明	負傷	救出	計	
10代					0	0
20代					0	
30代					0	
40代					0	0
50代					0	
60代					0	
70代以上					0	
年齢不明	0	0	12	4	16	100
合計	0	0	12	4	16	100

(7) 傷病者の居住地別発生状況

居住地についての記載漏れが多く、すべて不明扱いとした。

区分	死亡	行方不明	負傷	救出	計
都道府県別					
不明			12	4	16
合計			12	4	16

(8) グループ人数別発生状況

傷病者からの聞き取り内容として記載漏れが多く、データ数が揃わなかったため、割愛した。

(9) 傷病事故の通報状況

通報状況についての記載漏れが多く、すべて不明扱いとした。

通報別	通 報 者 (件)						比率 (%)
	本人	家族	同行者	他人	山小屋 救助隊	計	
口 頭							
携帯携帯							
電 話							
アマチュア無線							
その他無線							
不 明						16	
合 計						16	
比 率							

3 救助活動

(1) 傷病者対応時の出動状況

ビジターセンターでの対応が12件(75%)と最も多かった。

年度	区分	発生件数 (件)	消防	救助隊	ビジター センター	一般	合計
平成8年度		16	2	4	12		18

(2) ヘリコプター活用状況

傷病事故16件のうち2件(12.5%)にヘリコプターを依頼し、2人を搬送した。

年度	区分	依頼件数 (件)	負傷者救助 (人)	病人等救助 (人)	行方不明 (人)	遺体収容 (体)
平成8年度		2	1	1		